

当科における JALPAC への取り組みに関して

報告者氏名 山下徹、太田康之、佐藤恒太、阿部康二
所属：岡山大学大学院医歯薬学総合研究科脳神経内科学

研究要旨

パーキンソン病，進行性核上性麻痺（PSP），皮質基底核変性症（CBD），多系統委縮症などの神経変性疾患などを含めたパーキンソン症候群の研究を推進し、病気の進行と共に変化する診断・評価マーカーの検索，病態解明，治療法の開発が望まれている。そのためそれぞれの患者の正確な臨床情報と生体試料（血液、髄液）の収集を行う JALPAC 研究に積極的に参加し協力する予定である。現在までのところ、臨床研究倫理委員会並びにヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理委員会への書類申請を行い、承認された。

今後、各疾患患者のリクルートを行い、患者の正確な臨床情報と生体資料の収集を行っていく予定である。

A. 研究目的

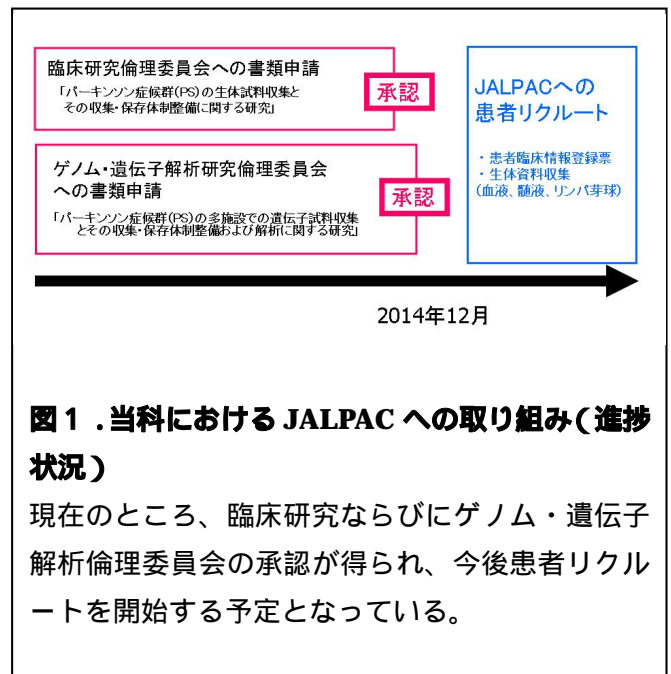
パーキンソン病，進行性核上性麻痺（PSP），皮質基底核変性症（CBD），多系統委縮症などの神経変性疾患などを含めたパーキンソン症候群の研究を推進し、病気の進行と共に変化する診断・評価マーカーの検索，病態解明，治療法の開発に活用することを目的とする。

B. 研究方法

そのために、それぞれの患者の正確な臨床情報と生体試料（血液、髄液）の収集を行っている JALPAC 研究に積極的に参加、協力する。

（倫理面への配慮）

本研究は臨床研究倫理委員会並びにヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理委員会の審査承認を受けた。



C. 研究結果

現在、JALPAC 研究に積極的に参加するために、臨床研究倫理委員会並びにヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理委員会へ申請を行い、前者は承認、後者は条件付承認となった。早急に承認審査を終了させた後、各疾患患者のリクルートを行い、生体資料の収集を行っていく予定である。

D. 考察

他施設共同研究を開始、運用するためには各施設での倫理委員会申請手続きに時間がかかるのが問題になる場合がある。主幹校で既に認証済みの場合、分担研究施設での手続きの簡略化が望まれる（全国共通倫理審査申請フォーマット等）。

生体試料収集と並んで、患者臨床情報を長期追跡することが重要であり、特定疾患臨床個人票をいかに活用するかが重要な課題となる

E. 結論

今後、PSP/CBD を中心に患者リクルートを行っていく。

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的所有権の取得状況（予定を含む）

なし